
黒羽

黒曉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒羽

【ZPDF】

Z0287F

【作者名】

黒曉

【あらすじ】

吸血鬼のお話。コメディです。一応、ファンタジーにしてます。

今宵、君の血をいただこう。

俺は、吸血鬼。でも血がなくても生きていける。
学校にも通っている。

トマトジュースはかかせない。
毎日飲まないと命に関わる。

変な吸血鬼といえば変だが、俺にとつてはそれが普通。

誰も俺を吸血鬼とは疑わない。

けど、たまには人間の血もいただきたくなる。

そう、綺麗な女を見た時なんかは。

・ふわふわのロングウェーブの髪型の女。

俺の横を通り過ぎた。
思わずゴクリと唾を飲む。
いい香りがした。

決めた今夜は君の血をいただこう。
大丈夫死にはしない。

少し血をいただぐだけ。
献血したと思えばいい。

月が照らしだすビルの屋上に立つ。
夜中の2時。

バサッと黒い翼を広げる。
普段は、もちろん翼は、消している。

月に向かつて飛び立つ。
獲物にめがけて一直線。

マンションのベランダにゆっくりと降り立つ。

パチンと指を鳴らすと窓の鍵が開く。

吸血鬼なのに便利な能力も備わっている。

よく眠っているようだ。

「やっと不適に笑い、部屋の中に入っていく。

不法侵入にも関わらず

「お邪魔します。」と小声で言いつてしまつ。

部屋の中は、綺麗に片づけてられている。とても清潔感あふれる部屋だ。

ベッドに眠っている女人を見て、何故だか愛しく思つてしまつ。

それでは、遠慮なく

「いただきます。」

優しく口づけをするのみで首筋に近づく。

「うう…。」

思わず飛び退く。

「、じ…。」

俺は、獲物を恨めしそうに見て、窓から飛び出した。

俺は、女の血をいただく事が出来なかつた。

何故なら、女の口から大の苦手なにんにくの臭いがしたのだ。

俺は、悲しい気持ちで大空に飛び立つ。

綺麗な女人の人でもにんにくを食べるようだ。

今日の晩飯は、餃子か？にんにく入りのラーメンか？だーっつ！そんな事どうでもいい！

俺は、吸血鬼。

普通の人間とたいした変わらない生活を送れる
だが、にんにくは大の苦手。そこはやっぱり吸血鬼。

トマトジュースを買つて我慢してやつ。

fin

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0287f/>

黒羽

2011年1月25日07時50分発行